

つながる・ひろがる交流会～北一社学区～

日時：平成 28 年 10 月 26 日(水)

14:00～15:40

場所：名東区役所 講堂

テーマ 「防災室の活動」について

1 概要

北一社学区は、大きな水害の危険性が低く、地盤も強固なため、自主防災活動があまり活発ではなかった。

そのため、自主防災会の活動を活性化することを目的に、平成 27 年 6 月に「防災室」を立ち上げ、自主防災会の活動支援を開始した。防災室の室長は連絡協議会の会長、副室長は消防団長はじめ 3 名であり、委員は 14 名、事務局 4 名の計 22 名が防災室のメンバーになっている。委員は民生・児童委員 2 名と各自主防災会の副会長 12 名からなり、各自主防災会から選出された委員の任期を 5 年以上とすることで、自治会長が 1、2 年で変わっても自主防災会が継続的な取り組みができる仕組みとしている。

防災訓練の様子



2 平成 27 年度の取り組み内容

調査活動	4 月～6 月	北一社地域の歴史調査
	5 月～6 月	地理調査（標高・地層・他）
	6 月～12 月	各町内危険箇所調査支援
	6 月～3 月	各町内家屋安全調査支援・・・耐震調査、家具固定調査
	6 月～3 月	各家庭の災害時備蓄品調査支援
	9 月～12 月	各町内会の備蓄品の調査支援
	(28 年度～)	避難行動要支援者調査・・・要支援者名簿の作成 要支援者マップの作成支援 要支援者救済計画の作成支援 (平成 28 年度からの「めいとう総合見守り支援事業」に対応)
避難訓練	9 月～1 月	地域密着型避難訓練の実施支援・・・現地本部の設置、要支援者への支援 組長・住民の参加意識向上支援 避難ルートの確保
	9 月～1 月	避難場所運営計画作成支援
PR 活動	計 5 回	防災セミナー、見学会の開催
	計 2 回	「防災ニュース」の作成・発行

3 今後の課題

- ・自治会長等が交替した場合も、各地域の「自主防災組織」が活発に動いている体制をつくる。
- ・「自主防災組織」の活動を通して、地域ごとの強い絆を築く。

4 意見交換の主なやりとり

(質問 1)

現在、近隣にどんな人が住んでいるかわからない状態であることが多い。例えば、小さいお子さんがいることや、介護が必要な高齢者がいることを把握していると災害時に迅速な対応ができると思う。そういったことを把握するために、学区が取り組んでいくべき手順をマニュアル化したようなものは市で作成していないのか？

→ (回答)〈総務課長〉

名東区では、現在「めいとう総合見守り支援事業」を実施しており、高齢者等の要支援者の方について支援者が情報共有するための同意書をご提出いただくことにより、災害時にその情報をもとに救援を行う、という事業を進めているところでございます。しかしながら、小さいお子さんがいる家庭を対象とした取組みまでは進んでおりません。

(意見 1)〈名東消防署長〉

活動が遅れているという話がありましたが、私は大変進んでいると感じました。防災室の委員を各自主防災会の副会長とし、任期を5年とすることは、各自主防災活動の活性化に繋がると思っています。また、災害直後は自主防災会の対応が重要なので、町内単位での訓練は非常に有意義だと感じました。

(意見 2)〈社会福祉協議会事務局長〉

毎月、AEDの使い方実習、家具の固定の仕方実習を開催するのは中々できることではないと感じました。ご発表の中で、「防災の最終目標は絆づくりだと考えます。」といったお話があり、地域の繋がりの希薄化は社会福祉協議会や行政としても課題になっている問題なので、地域の関心の強い「防災」という切り口で、地域の絆づくりをされているのは、非常に興味深いお話でした。

(意見 3)〈コミュニティサポーター〉

住民の意識調査を実施し、そのアンケート結果を活動に反映されているということで、非常に意義のあるアンケートだと感じました。また、色々なバリエーションの防災訓練を今後取り入れていかれるという点や、防災室の委員に女性視点担当を設けられている点も非常に興味深いお話でした。

5 まとめ

(北一社学区連絡協議会会長)

防災室は自主防災会の活動を活性化させるためにつくりました。自主防災会の活動を通して、地域の絆づくりができればと考えております。

(名東区長)

実地訓練を行い、色々なことを学び、問題点も明らかになり、次へ繋いでいくという、実際に行うという点が非常に重要であると感じました。また、学区より小さい単位で地域密着の活動をされていて、人が変わっても活動が継続される仕組みをつくられている点も非常に優れていると思いました。